

特定非営利活動法人 障害者と共に生きる会 あしたば

# あしたば

発行  
春日部市米島915-26  
048(745)3125  
NPO法人あしたば

## 社会福祉法人平徳会「こしがや希望の里」 春日部市地域デイケア施設「あおぞら」

### 施設見学

2月15日(火)雪の降る中、施設見学に行きました。参加者は少なかったものの、以前からぜひ見学したいと思っていた施設なので、みんなわくわくして出かけました。

#### ピアノカの演奏でお出迎え

施設見学のバスがついたのは、越谷市内とはいえ畑と田んぼの真ん中で、人家はポツポツ。建物は2階建ての新しい、きれいなもの



希望の里 正面玄関です

でした。

私たちが玄関を入ると、入口のところ一人の利用者の男性が立っていて、ピアノカでプカプカと同じ旋律を、みんなにお見せしたいという顔で弾いてました。施設の方が「この人はこれが好きなんです。いつも弾いているんです」と紹介してくれました。この偶然のおもてなしに心が和みました。この施設の自由で温かい象徴のよ

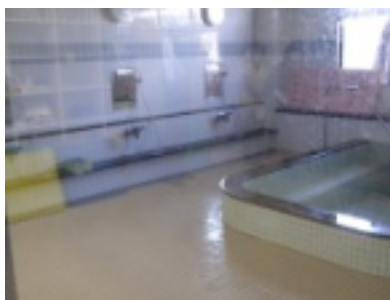
うな気がしました。  
1階が男性、2階が女性のプライベートルームで、どの部屋も南向きか西向きで、大きな窓があり、2月でも太陽がいっぱい入り、暖かくていいなあと思いました。部

個性のあらわれる居室



て回り、食堂にはメニューが豊富で一週間の献立が貼られています。見学者もおい

「この施設のたち上げ」については、ある会社の社長さんが「最後の仕事を社に手伝いし」と



気持ち良さそうなお風呂

### 第3回 総会のご案内

特定非営利活動法人 障害者と共に生きる会 あしたば 第3回総会を下記のとおり行います。

お忙しいとは存じますが、ぜひご臨席いただきますようお願いいたします。



なお、議案は事前に送らせていただきますので、当日ご持参いただきますようお願い申し上げます。

日時 6月4日(土)  
10:00~12:00  
場所 庄和社会福祉センター  
2階会議室

しそつなメニューに「いいですね」と言っていました。利用者さんも食事を楽しみにしており、早くから食堂に来ている人もいます。また、常駐の看護師のいる診療室もあり、投薬の管理と、病

気への対応もできています。全体的に、居住している利用者さんに優しく、生活のゆとりがあるように思いました。私たちが一番に聞きたかった

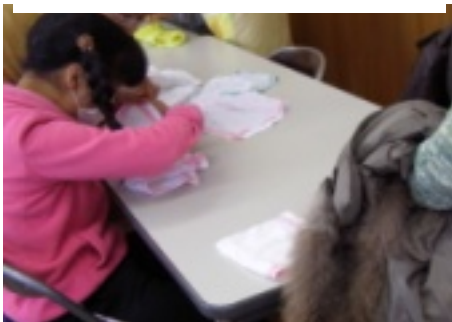
施設長さんの話を熱心に聞く参加者



の補助金の補助金以外は全額個人出資されたということでした。若い所長さんも「以前からこの仕事をした

い」と思っていたので、声がかかり、立ち上げの段階からかわつてきたと言います。現在は、赤字にならずに運営が出来ており、若いスタッフも結婚できるだけの給料を出しているの、定着していると言います。学校の実習できた人がそのまま就職するケースも多く、スタッフが若々しく、明るく落ち着いている印象を受けました。

みんなで使うタオルをたたみます



入所の希望者が多く、待機者は県内1、2を争うほどだとのことでした。利用者の負担は、国からの補助金で十分賄えるので、それほど多くないようでした。見学に行つた人は障害のあるお子さんがいる人が多く、わが子を思い熱心に質問や見学をしていました。

がいたらいいのに...と思う反面、そのように考えなくてはいけない国の貧しい支援に腹立たしくもありました。(尾崎信子) 利用者が明るくなる 取り組みを...

午後からは春日部市地域ダイヤ施設「あおぞら」(23年4月からは「心身障害者通所支援施設あおぞら」)に見学に行きました。「あおぞら」は庄和社会福祉センターの1階にあります。施設に入つての第一印象は、全体の雰囲気は暗く感じました。車いすの利用者も多く少し手狭に感じました。また、利用者に対しての職員の声かけや働き掛けが少なく感じました。利用者さんは全員同じ作業をして



つまようじ入れを折っています

あるようにも思いました。たとえば、班に分けて課題別に行うとかもいいのではないかと思いました。また、利用者がもう少し明るく楽しくなる取り組みがあるといいと思います。

障害の状態が様々なことから、ご苦労さめていれることも多いと思ひます。市の人事異動で来られた方には、一人ひとりの個性や出来ることの把握だけでも大変だと思ひます。また、市の施設であることから予算不足などもあると思ひます。「若い頃から福祉施設で働きたかったのが実現した」とおっしゃっていた施設長さんの思いが職員や利用者に伝わり、障害があつて表現や言葉に表せない利用者たちも、実は楽しくあおぞらに通所しているという実感が持てるような施設であることを、見学した人も利用者の保護者も期待しています。

### 当面の日程

- <市役所販売>
  - 5月6日 6月3日 7月1日
- <総合支所販売>
  - 5月19日 6月16日 7月21日
- <あぐりパークフリーマーケット>
  - 5月15日
- <総会>(詳細は別項)
  - 6月4日(土) 10:00~
  - 庄和社会福祉センター 会議室



高台にある志津川小学校(避難所)から見た南三陸町。

(房総炭工房たけさと社長熊木氏のブログより)



震災の中の障害者

障害者とその家族が孤立しないように

思いもよらない悲惨な大災害に、今もまだ先が見えない不安な日々が続いているように思えます。阪神淡路大震災を機に、「大災害」というのもが起る度に「障害児者とその家族はどうしているのだろ」といつも思っていました。そして今回もまた…。

自分たちが避難所で過ごすことを想像すると、まず思うのが「避難所には居られない」ということ。知的障害児者や自閉症者は声を出し続けたり、身体をゆすつたりうるうるしたり…きつと周囲の人た

ちをイライラさせてしまうだろうなと思うと、大勢の人が集まる避難所生活は無理だとしか考えられないのです。そうすると、車の中で過ごすか壊れそうな家でもがまんするか…どちらにしる「情報」や「配給」などから遠ざかり「孤立」につながります。このような身近に考えられる「不安」や「困難」は、あしたばでも春日部市障がい者福祉課との話し合いの中で対応をお願いし続けているところです。

報道もなかなか弱者をクローズアップしない中、教育テレビだったらあるかも!と思いついたのがNHKの「きらっといきる」という番組で、今回の震災で障害児者がどのように過ごしているか、何に困っているか、それに対してどのような支援が行われているのか等取材して紹介していました。自閉症の男の子は、やはり避難所には居られず家族と車で過ごしていました。視覚障害の方は、津波によって破壊され変わり果ててしまった町を一人では歩けなくなっていました

港から一本入った幹線道路にあるリフォームしたばかりの旅館(1階は津波にやられた)

(同上ブログより)



ことです。雑然とした避難所ではトイレに行くのも大変だし、配給がきてもどこに取りにいけばいいのかわからないなど…聴覚障害の方は逆に、避難所においても音声でもたらされる情報が入ってこなくて不安になる。「紙に書いて貼ってくれば」と言っていました。さまざまな障害児者やその家族に共通するものは、障害によって生じるそれぞれの困難や不安があり、それが避難所に居ても居られなくても「孤立」につながってしまうということなのではないかと感じました。また、阪神淡路大震災を経験した障害者団体が被災地に入り感じた事は、阪神淡路の時に学び、マニュアル作りまでしたことが生かされていないということだった

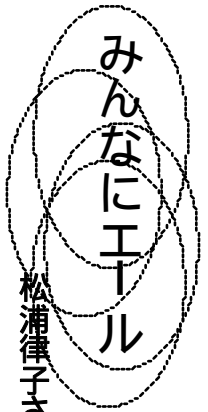
要だと思えました。

様々な事が考えられる中で備への第一歩!何よりもまず日常の中で「孤立」せず、ご近所とのお付き合いや、私たち「あしたば」のような「仲間」とのつながりなど、どこかにつながっておくということ。支えあう関係を何か持つていければきつと災害時も心強いはずです。

私たちの町でも、まだ毎日のように地震が起きています。首都圏直下型の地震の不安もあります。その時になってあわてないようにハード面でも、ソフト面でも、必要なことは何かを自治体、地域、家族で考えていく必要があると思います。



松浦さんが手伝いに来てくれた昨年の大凧マラソン



松浦律子さん

皆様 こんにちは！

神奈川県鎌倉市に住む、遠隔地会員の松浦です。

「あしたば」を知るきっかけになったのは、インターネットでした。世の中がIT、ITと言い出した1999年に、北鎌倉で集まるようになった「紫陽花倶楽部」のメンバーのネット友達から縁ができて、庄和町時代の「あしたば」の存在を知り、気がつけば10年以上の月日が流れていました。日記を紐

解いてみれば、2002年のクリスマス会から参加し、2005年の大凧マラソンのやきそば屋さんからお手伝いしているようです。1年に2回のことですが、ずい分続いているのですね。

そのほかに、「あしたば」のメンバーの方が、年に3回ほど鎌倉方面に遊びに来てくださってお会いしています。

最初に参加した時に、イベントのあとで、会員の皆さんとお食事をしたのですが、一番驚いたのは皆さんの明るさでした。人には言えないような苦勞がたくさんあったと思うのですが、それを明るく笑い飛ばす皆さんのたくましさを見て、感動してしまいました。

子供が小さい時は小さい時で、大人になっただけで、親はいつまでも苦勞が絶えないと思います。同じ思いを持つ人達が話し合える場があるというのはすばらしいことです。少しでも多くの人に、その輪が広がるといいですね。

どんな小さな会でも、それを維持運営していくのは大変です。庄和町が春日部市になり、「あしたば」もNPOとして、少しづつでも地元で根付いた活動を

<市役所販売>

1月	2,000円
2月	220円
3月	5,430円
4月	3,000円

<総合支所販売>

1月	5,460円
2月	7,100円
4月	10,510円

<ショップ売上>

1月	4,300円
2月	9,560円
3月	5,231円
4月	5,660円

<寄付・物品の提供など>

「被災地への支援を！」と職場や地域で訴えた会員さんが、避難所で受け取っていただけなかった古着などを、提供して下さった方の了解を得て、あしたばに寄付していただきました。フリーマーケットで販売し、売上げの一部を義捐金として寄付させていただきます。

<あぐりのフリマ>

1月	31,750円
4月	17,100円

今年の大凧マラソンは、中止になったため、例年見込まれている収入がありません。なかなか厳しい状況です。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



江ノ電が走る松浦さんの住む鎌倉

広げていかれるよう祈っています。埼玉県と神奈川県では、ちょっと気軽に行かれる距離ではないので、実質的にお手伝いできないのを心苦しく思っています。これからは私自身の自由な時間ができてきますので、何かお手伝いできることを探してみたいと思っています。

